

受け手の心に届く 広告づくりを目指して

「これから広告研究会の学内コンペを行います。テーマとなるのは、アパレルメーカーの夏の新商品。速乾性があって涼しい着心地が特徴の洋服です。チームごとに、広告キャンペーンの方法を提案してください。それではスタートします」。ここは帝京大学の八王子キャンパス。スーツ姿の学生が集まる教室で、プレゼンテーションが始まりました。主催する広告研究会は、学生たちが自主的に作った、まだ活動1年目の若いサークルです。立ち上げたのは文学部社会学科の男子学生、米村さんと葉山さん。今回のコンペも2人が企業に直談判して実現しました。今日のコンペで評価が高かったチームは、実際に企業を訪ねてプレゼンすることが出来ます。それぞれの発表は持ち時間10分。現状分析、問題提起、コンセプト提案、企画提案、予算提示という流れで進んでいきます。

3チームのプレゼンが終わって、米村さんチームの順番がまわってきました。「本企画のターゲットは、遊びに力大な大学生です」と落ち着いた口調で話し始めます。「たかさんの大学生が集まる街に商品のイメージキャラクターを出没させて、発見した人には割引チケットを配る

というゲーム性のあるイベントを考えています。それによって話題性だけではなく、お客様の店舗誘導にもつなげられます」。顧問の神郡先生からは、コンセプトが明快でよかったと評価されました。

次は女子学生の長谷川さんがプレゼンターを務めるチーム。「私たちは、夏に鍋パーティーを大々的に開く案を考えました。速乾性のある素材の素晴らしさを体感してもらうため、暑い夏に屋外でキムチ鍋を食べる。おもいっきり汗をかいてもベタつかない爽快感を伝えます。イベントを開催することで、参加者のスナックや感想をメディアに発信したり、学生同士の出会いをサポートすることもできます」。体感させる。がキーワード。学生らしい独創的な企画が出されました。

5チームすべてのプレゼンが終わわり、審査の結果、この2チームの企画を企業に持ち込むことになりました。今年は何国から大学生が集う、釜山国際広告祭のコンペにも出場する広告研究会。この日のために準備の段階から奔走してきた米村さんと葉山さんに、活動に打ち込む理由を尋ねると、「広告って一秒で気持ちをつかみますよね。それが面白くて」と答えてくれました。プレゼンテーションとは、伝える相手に向けてのプレゼン。受け取る側の気持ちを徹底的に考え抜いた提案づくりに、ますます磨きがかかりそうです。

feel TEIKYO ft

あなたにつながる帝京大学 撮影・tsukao



帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします

帝京大学のあれこれを充実のコンテンツで紹介する冊子「feel TEIKYO」を配布中。
冊子請求先 → ① post@med.teikyo-u.ac.jp (本部大学PR推進室)
スペシャルサイト → www.feelteikyo.com